



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三〇五号〜

処暑 しよしよ 八月二十三日

魚類供養碑

三重県は約千キロにおよぶ長い海岸線をもつ、漁業の盛んな地。その海辺を歩くと、魚類を吊う供養碑を見つけることがあります。

鳥羽湾に面した鳥羽市小浜町 おはまちょう。その集落の中ほどにある濟渡院 さいとくいんの境内に、「南無阿弥陀佛 なむあみだぶつ」と刻まれた石碑がありました。その下の文字は摩耗して読みにくいのですが、「鮭鱈鯔水族」ということです。ボラと、その幼魚のスバシリ、さらに水中に生息する生きものを供養しているのです。明治三十年、ボラやスバシリが大漁だったのでしよう。その利益で供養碑を建てたのです。

その隣の供養碑には、南無阿弥陀佛の下に、「鱻」という文字が刻まれています。ユムシと読み、タイのはえ縄漁のエサに使われる長さ十センチほどのソーセージ状の生きものです。漁のエサとなる生きものも供養していたのです。

寺の住職に伺うと、浅海の砂泥底に生息するユムシを採る採取器の発明に成功し、多くのユムシを採ることができるようになったため、明治三十年に有志で建立したといえます。供養碑からは、この浜辺に刻まれた歴史がよみがえってくるようです。

「魚を捕る漁師には殺生 せつしょうをしているという気持ちがあり、お盆の十三日〜十五日には沖（海）には出やんという古老もいらっしやいます」と、住職が供養碑を建てる漁師の気持ちを教えてくれました。

魚類供養碑には、魚を生業とする人々の思いも刻まれているのでした。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 来る福絵手紙公募展作品募集

今年のテーマは「新しい時代の福招き」
皆様にとって、令和の時代にどんな福を招きたいですか？
明るく、楽しく描いてください。皆様の思い描く新時代の福を絵手紙で募集します。

【規定】

- ・1人につき1作品のみ。
- ・官製はがきまたは、はがき大の用紙を使用。
- ・未発表または発表予定のないもの。
- ・入選作品の著作権は、主催者に帰属するものとし、作者は著作者人格権を行使しない事に同意される方

※なお、主催者側が開催主旨、公序良俗に反すると判断した場合には、作品の展示を差し控えさせていただきます。

応募先／住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記まで郵送。

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52

おかげ横丁内「来る福招き猫まつり実行委員会」宛

締め切り／9月7日(土) 必着分まで 作品は原則返却いたしません。

賞品／大福賞 1名(賞金3万円、記念品、賞状)

中福賞 1名(賞金2万円、賞状)

小福賞 1名(賞金1万円、賞状)

五十鈴川郵便局賞 1名(記念品、賞状)

吉兆招福亭賞 1名(記念品、賞状)

※なお、入賞作品は、次回の招き猫まつりの切手シート、ポストカードにデザインを使用させていただきます。

受賞通知／9月13日(金)までに電話にて連絡

展示期間／9月14日(土)～29日(日)

展示場所／おかげ横丁内「特設会場」

主催／来る福招き猫まつり実行委員会

お問合せ／おかげ横丁総合案内 TEL0596-23-8838

五十鈴塾

○ 旅する神々④～山のカミ～

日本列島は山島列島というのがふさわしく、どこからでも山々が望めます。その山々のなかで山容の優れた山が、御山(御岳)として信仰を集めてきました。そこには「山のカミ」が鎮まる、とするのは、神道や仏教が成立する以前からのアニミズム(自然信仰)というものです。その山のカミは、歳神にもなり、田のカミ・水のカミにも変じ、里に降りてきます。現在にも伝わる、日本ならではのアニミズムということが出来ます。そういえば、御山に帰らず里(家)に居すわる山のカミもおりますが、そこにも深い意味がありそうです。

と き／8月28日(水) 18:30～20:00

講師／神崎 宣武(民俗学者・五十鈴塾塾長)

参加料／一般1,600円 会員1,100円

場 所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

つゆ たま
露の玉

羊羹のきんとんと、露に見立てた錦玉の組み合わせ。
秋の季語「露の玉」を、お菓子で表現しました。

のさく
野菊

嫁菜や野紺菊など、数多くの仲間を持つ野菊。
練りきりで粒餡を包み、初秋の野末に揺れる、
小さな白い花輪に見立てました。

ふじばかま
藤袴

葛製の生地と緑餡で染め分けた、紫・白・緑の彩り。
この時季にふさわしい、花そのままの姿が印象的です。